

## 2-3 日本語教育学

### 研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野では、日本語教育学の教育・研究範囲を日本社会や文化、日本人の意識などまでも含めた広い文脈で捉えている。以下に教育・研究活動の概要とその特色を概括する。

第1の特色は、学部・大学院それぞれに、学生自身がコースデザインから日本語の授業担当、報告書作成までを行う教育実習が用意されていることである。

第2の特色は、つねに日本語教育の現場を意識していることである。日本語学研究や語用論研究などについては、理論をどう現場に応用するかを意識して研究している。また、日本語教師養成に関わる研究では、実習における実習生の態度変容や教師役割観などについての研究を行っている。現場への意識から、教材開発に関する研究にも積極的に取り組んできている。

第3の特色は、日本語が用いられる社会的背景を意識して、社会学など日本語教育学以外の専門を持つ教員が所属していることである。現代日本人の家族や職業に関する実証的研究を行っている。

第4の特色は、調査法、統計分析やプレゼンテーションのスキルなどについての実践的な講義も学部・大学院で提供していることである。

### I 組織

#### 1 教員数 (2015年5月20日現在)

教授：2

准教授：1

教授：才田いずみ，名嶋義直

准教授：田中重人

助教：梅木俊輔

#### 2 在学生数 (2015年5月20日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
20	3	7	7	0

### 3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	7	4	0
11	9	7	0
12	8	2	0
13	10	4	0
14	6	5	1
計	40	22	1

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	1	0	1
計	1	0	1

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

梅木俊輔，2014年度，題目：聞き返し発話の解釈に関する認知語用論的考察，  
主査：名嶋義直（教授），才田いずみ（教授），助川泰彦（教授），田中重人（准教授），甲田直美（准教授）

### 2 大学院生等による論文発表

#### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計

10	0	2	0	0	2
11	1	0	0	0	1
12	2	1	0	0	3
13	2	5	4	5	16
14	7	6	1	2	16
15	0	0	1	0	1
計	12	14	6	7	39

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

## 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	2	1	1	3	7
11	0	3	1	0	4
12	11	2	2	0	15
13	3	2	6	0	11
14	3	5	0	1	9
15	0	1	1	0	2
計	19	14	11	4	48

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

アサノワ・グリザル 「キルギス人日本語学習者の教授本動詞の誤用について」『言語科学論集』17号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2013年。

アサノワ・グリザル 「キルギスの大学におけるシラバスと非母語話者教師の教師研修について」『言語科学論集』18号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，pp.75-87，2014年。

梅木俊輔 「エコー型聞き返しの発話機能と発話末イントネーションとの関係」『日本語／日本語教育研究』日本語／日本語教育研究会，2巻，2011年。

梅木俊輔「感動詞への「と」の付加をめぐる誤用論的意味に関する覚書」『言語科学論集』第17号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2013年。

梅木俊輔「日本語学習者のポライトネス・ストラテジーに関する一考察」『日本語用論学会第15回大会発表論文集第』8号，日本語用論学会，2013年。

梅木俊輔「聞き手の発話解釈に感動詞が関与する程度差について—暗示的意味を中心に—」『文化』第77巻3・4号，東北大学文学会，2014年。

- エミ・インダー・プリヤンティ 「在日インドネシア人研修生の実態と問題に関する調査報告—宮城県の研修生を中心に—」 『言語科学論集』 第 14 号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, 2010 年.
- エミ・インダー・プリヤンティ 「接触場面における「直接話題転換方略」に関する一考察—初対面場面の会話を維持するために—」 『文化』76(3・4), pp.39-50, 2013 年.
- エミ・インダー・プリヤンティ 「インドネシア人のコミュニケーション・ストラテジーについての—考察—接触場面でのコミュニケーションを円滑に進めるために—」 『日本語用論学会第 15 回大会発表論文集』 8 号, 日本語用論学会, 2013 年.
- エミ・インダー・プリヤンティ 「接触場面における問題処理の コミュニケーション・ストラテジーに関する一考察—インドネシア人 日本語学習者の場合—」 『日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性』 ココ出版. pp.607-618.
- 金 祉諤 「韓国語の使役移動動詞とその日本語訳に見られる語彙化のパターンと多義性」, 『言語科学論集』 17 号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, 2013 年.
- 金 祉諤 「日本語の「伝える」「投げる」, 韓国語の“jeon-ha-da” “deon-ji-da” のプロトタイプの比較: 母語話者の考える意味のプロトタイプの比較」, 『第二言語としての日本語の習得研究』 17 号, 凡人社, pp. 41-58, 2014 年.
- 齋藤昭子 「外国人散在地域の高等学校における JSL 生徒の状況と課題—「見えにくさ」を超えるために必要な視座—」, 『言語科学論集』 第 18 号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, pp. 89- 100, 2014 年.
- 島崎 薫 「日本語学習者の「日本語使用者」としてのインターネットを通したリソース使用に関する調査」 『言語科学論集』 第 14 号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, 2010 年.
- 島崎 薫 「Heritage Language 継承語を考える」, 『NichiGo Press』 Vol.37 No.425, 2013 年 4 月.
- Kaori Shimasaki An Overlapping Broad Interface (OBI) zone: A case study of Japanese language learner's participation process in a Communities of Practice (CoP) and a Networked CoP (NCoP), Proceedings of the 18th Conference of the JSAA: Peer-reviewed full papers, 2014 年.

- 高橋亜紀子「上級中国人日本語学習者の読解の問題点—再話・筆記再生タスクの分析を通して—」『宮城教育大学紀要』第47号, pp.357-371, 2012年.
- 高橋亜紀子「オーストラリアの小学校での日本語インターンシップ」『日本語教育方法研究会誌』Vol.20, No.1, pp.102-103, 2013年.
- 高橋亜紀子「第2回ESD海外小学校インターンシップ研修報告—参加者は何を学んだのか—」『宮城教育大学国際理解教育研究センター年報』第8号, pp.30-44, 2013年.
- 小河原義朗・高橋亜紀子「ディクテーションによる音声知覚トレーニングの実践」『日本語教育方法研究会誌』Vol.20, No.2, 2013年.
- 高橋亜紀子「日本人学生と留学生の合同授業の取り組み—教員養成大学で行った授業の実践報告—」『ウェブマガジン留学交流』2014年3月号, Vol.36, 2014年.
- 高橋亜紀子「ESD海外インターンシップ研修 - 第3回実施報告 -」『宮城教育大学国際理解教育研究センター年報』第9号, 2014年.
- 高橋亜紀子「筆記再生課題に見られる日本語学習者の読みの特徴」, 『文化』第78巻第1・2号, pp.40-66, 2014年.
- 高橋亜紀子「教職大学院における短期海外研修とその意義について—参加者へのアンケート調査と参加レポートから—」, 『宮城教育大学紀要』第49号, pp.319-331, 2015年.
- 高橋亜紀子「文章の構造を図式化する課題に見られる中・上級日本語学習者の問題点」, 『日本語教育方法研究会誌』Vol. 22, No.1, pp.64-65, 2015年.
- 高橋亜紀子・箱田恵子「短期海外研修プログラムの開発と実施—韓国編—」『宮城教育大学国際理解教育研究センター年報』第10号, pp.32-39, 2015年.
- 高橋亜紀子・箱田恵子・鈴木里佳子「宮教大生の海外留学に対する意識調査」『宮城教育大学国際理解教育研究センター年報』第10号, pp.40-49, 2015年.
- 仁科浩美・安原 薫・廣瀬文彦「実践英語力及び社会人基礎力の向上を目指した派遣型サマープログラム」, 『工学教育』第60号4巻, 公益社団法人日本工学教育協会, pp.97-102, 2012年.
- 仁科浩美「口頭発表時の質疑応答に対する留学生の意識と態度—日本人学生との比較を通じた質的分析から—」『山形大学紀要(教育科学)』15(4), pp.75-92, 2013年.
- 仁科浩美「日本語による口頭発表時の質疑応答に対する留学生の意識と態度—修士課程を1年経過した留学生の事例から—」『小出記念日本語教育研究会論

- 文集』, 21, pp.31-44, 2013 年.
- 仁科浩美 「理工系博士後期課程の学生は口頭発表をどのように捉えているか—留学生と日本人学生へのグループインタビューから—」 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』, 5, pp.38-45, 2013 年.
- 仁科浩美 「口頭発表時の質疑応答において無音声時には何が行われているか—理工系分野の留学生を対象に—」 『日本語教育方法研究会誌』, vol.20 No.2, 2013 年.
- 仁科浩美・ジスク、マシュー 「卒業生が勤務する海外進出日本企業訪問を通じた海外勤務への認識の変容」, 『工学教育』, 日本工学教育協会, 62 (3), 2014 年.
- 仁科浩美 「留学生の視点から山形の良さを発信—山形県における留学生の地域貢献—」, 『留学交流』 42, 日本学生支援機構, pp.34-39, 2014 年.
- 仁科浩美 「理工系留学生の発表場面における質疑応答の課題—コミュニケーション・ブレイクダウンの観点から—」, 『専門日本語教育研究』 16(16), 専門日本語教育学会, pp.37-44, 2014 年.
- アカデミック・ジャパニーズ研究会編著者, 仁科浩美 全頁執筆担当, 『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ③論文読解編』, 株式会社アルク, 2015 年 (5月28日発行予定) .
- 濱田 修 「留学生の教室外日本語学習環境との相互作用に関する一考察」, 『文化』 第 75 巻 3・4 号, 東北大学文学会, pp.61-83, 2012 年.

## (2) 口頭発表

- アサノワ・グリザル 「「あげる」「もらう」「くれる」の誤用について—キルギス人日本語学習者を対象に—」, 第 11 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2013 年 8 月 5 日.
- アサノワ・グリザル 「キルギスの大学における日本語会話指導の実態と教師の意識 —非母語話者教師の教室活動に焦点を当てて—」, ポスター発表, 第 24 回小出記念日本語教育研究会, 国際基督教大学, 2015 年 7 月 4 日 (予定)
- 梅木俊輔 「聞き返しに関する考察—対人的作用を中心に—」, 第 2 回松島日本語教育研究集会, 松島町中央公民館, 2010 年 7 月 19 日.
- 梅木俊輔 「エコー型聞き返しに関する考察—発話機能と発話末拍の上昇調の関係を—」, 第 8 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2010 年 8 月 9 日.

梅木俊輔 「感動詞と「と」の共起に関する一考察—CSJ 自由対話を資料として—」,  
第 9 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2011 年 8 月 8 日.

梅木俊輔 「文脈指示の「この」・「その」の選択に関する一考察」2012 年日本語  
教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012 年 8 月 19 日.

梅木俊輔 「日本語学習者のポライトネス・ストラテジーに関する一考察」, 名嶋  
義直・小山友里江・梅木俊輔・エミ インダー プリヤンティ, 「語用論研究  
から日本語教育へ, 日本語教育から語用論研究へ」(徳憑発表), ワークシ  
ョップ発表, 日本語用論学会第 15 回記念大会, 大阪学院大学, 2012 年 12 月  
1 日.

UMEKI Shunsuke・NAJIMA Yoshinao, “Behavior in ‘sequence-closing third’: ‘Why  
they don’t say that I don’t know what to say?’ ”. 13<sup>th</sup> International Pragmatics  
Conference (IPrA), India Habitat Centre, New Delhi India, September 12, 2013.

梅木俊輔 「発話解釈に伴う推測と視線認知」, 第 34 回社会言語科学大会, 立命  
館アジア太平洋大学, 2014 年 9 月 13 日.

梅木俊輔 「学生ボランティアの立場から—コミュニケーションの多様性—」, 名嶋  
義直・沢田充・梅木俊輔・寺川直樹・山森理恵 「縁側で『こんにちは』プロ  
ジェクト—共有・共感・共生空間の創生—について」, 第 3 回国連防災会議  
パブリック・フォーラム, 仙台市民会館, 2015 年 3 月 15 日.

于凌越 「中国人日本語学習者の E メールに見られる問題点: 「開始部」と「終了  
部」を中心に」, 第 13 回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2015 年 8 月 6 日  
(予定)

エミ・インダー・プリヤンティ 「接触場面におけるコミュニケーション・ストラ  
テジーに関する一考察 - インドネシア人日本語学習者の場合 -」, 第九回国際  
日本語教育・日本研究シンポジウム (香港), 2012 年 11 月 24 日.

エミ・インダー・プリヤンティ 「インドネシア人のコミュニケーションストラ  
テジーについての一考察—接触場面でのコミュニケーションを円滑に進めるた  
めに—」, ワークショップ「語用論研究から日本語教育へ, 日本語教育から語  
用論研究へ」, 日本語用論学会第 15 回大会, 大阪学院大学, 2012 年 12 月 1  
日.

エミ・インダー・プリヤンティ 「接触場面における話題への対応のストラテジー  
に関する一考察」, 日本語/日本語教育研究会第 5 回研究集会, 学習院女子  
大学, 2013 年 9 月 29 日

金 祉諫 「中級動詞コロケーションの特徴」, 2011 年度日本語教育学会秋季大会,

- 米子コンベンションセンター，2011年10月9日。
- 金 祉諒「ILのプロトタイプ形成におけるL1のプロトタイプの影響：韓国人日本語学習者の「伝える」「投げる」のプロトタイプに見る“jeon-ha-da”“deon-ji-da”のプロトタイプの影響」，第16回言語科学会年次国際大会，文教大学，2014年6月28日。
- 栗原通世「中国語北方方言母語話者による母音長判断の難易—音節位置・アクセント型を中心に—」，第28回日本音声学会全国大会，東京農工大学，2014年9月27日。
- 土屋千尋・松岡洋子・内海由美子・松本一子・齋藤昭子・関裕子・齋藤ひろみ「外国人散在地域における多文化背景をもつ子どもへの教育・支援の展開—岩手・山形地域でのとりくみからみえてきたこと—」，異文化間教育学会第31回大会，奈良教育大学，2010年6月13日。
- 土屋千尋・内海由美子・齋藤昭子・関 裕子「『大人のネットワーク』は『子どものセーフティネット』—外国人散在地域における子どもの教育支援ハンドブック作成過程からの考察—」，異文化間教育学会第32回大会，お茶の水女子大学，2011年6月12日。
- 齋藤昭子「JSL生徒少数在籍校におけるピア・レスポンスの試み—ある高等学校の国語の授業実践—」，2013年度異文化間教育学会第34回大会，日本大学，2013年6月8日。
- 佐々木奈月「軽度知的障がいを持つ日系アルゼンチン人生徒への算数の学習支援に向けて—加減算の文章題におけるつまずきの分析—」，異文化間教育学会第32回大会，お茶の水女子大学，2011年6月11日。
- 島崎 薫「情報サービスリソースとしてのインターネットの役割に関する—考察—ニューサウスウェールズ大学日本語学習者インタビューを通して—」，第2回松島日本語教育研究集会，松島町中央公民館，2010年7月19日。
- 島崎 薫「言語教育における学習者オートノミーの構成要素の整理—異分野におけるオートノミーとの比較を通して—」，2010年度日本語教育国際研究大会，台北（台湾），2010年7月31日。
- 島崎 薫・エミ・インダー・プリヤンティ・佐々木奈月「短期日本語プログラムでのブログ活用に関する—考察—東北大学日本語教育夏季実習を例に—」，2010 PC conference，東北大学，2010年8月8日。
- SHIMASAKI K. “Theoretical framework for the learning process of second language learners in Communities of Practice”, School of International Studies Postgraduate



Conference 2012, シドニー (オーストラリア) , 2012 年 9 月 7 日.

島崎 薫 「オーストラリアの日本語学習者における学習者オートノミーの発揮についての一考察」, 2012 年日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012 年 8 月 18 日.

Tetsushi Ohara, Barbara Northwood, Evelyn Wai, Kaori Shimasaki, Lin Feng, Motoko Christensen, Sally Chan, Tamami Mori, Yuji Okawa, Chihiro Kinoshita Thomson, Sumiko Iida, “Lost in research? An attempt to create a learning community for research students at an Australian university”, National Symposium 2012, シドニー, 2012 年 11 月 2 日～3 日.

SHIMASAKI Kaori “Participating in a learning community outside the classroom through Overlapping Broad Interface (OBI) zone”, Faculty of Arts and Social Science Postgraduate Conference 2012, シドニー (オーストラリア) , 2012 年 11 月 15 日.

SHIMASAKI Kaori “A Community of Practice as an Overlapping Broad Interface (OBI) zone: A case study of the Nippon Students Association (NSA) in the UNSW Japanese community”, Panel: Kaori Shimasaki, Sally Chan, Tamami Mori, Chihiro Thomson, Lin Feng, Evelyn Wai, Japanese Program as an evolving Community of Practice, Japanese Studies Association of Australia 2013 Conference, キャンベラ (オーストラリア) , 2013 年 7 月 8 日～11 日.

TAKAHASHI Akiko “Japanese Student Teaching Internship Program in Australia”, The Fifth CLS International Conference Proceedings, 2012 年 3 月 18 日.

高橋亜紀子 「震災後の国立大学における留学生受け入れのボトルネックとその改善案への取り組み—宮城教育大学の事例—」, 東京海洋大学, 2012 年 5 月 25 日.

高橋亜紀子・内山潤 「「生活者としての外国人」に対する文字学習アプリの開発」, 2012 年日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012 年 8 月 19 日.

小河原義朗・高橋亜紀子 「音声知覚トレーニングのためのディクテーション課題の検討」, 2012 年日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012 年 8 月 19 日.

小河原義朗・井口寧・高橋亜紀子 「ディクテーションによる聴解学習支援システムの構築」, “Fifth International Conference on Computer Assisted Systems For Teaching and Learning Japanese” (第 5 回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 CASTEL/J) , 名古屋外国語大学, 2012 年 8 月 21 日.

- 高橋亜紀子「日本語学習者と日本語母語話者の読解過程の比較」 Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE) Annual Conference 2013 トロント大学 (カナダ), 2013年8月23日.
- 小河原義朗・高橋亜紀子「ディクテーションによる音声知覚トレーニングの実践」日本語教育方法研究会, 立命館アジア太平洋大学, 2013年9月21日.
- 高橋亜紀子「読解再話タスクの分析」(ポスター発表), ICJLE2014, シドニー工科大学 (オーストラリア), 2014年7月11日.
- 仁科浩美「日本人学生が口頭発表の質疑応答において感じる困難点—刺激回想法を用いた日本人大学院生への調査—」, 2012年日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012年8月19日.
- 仁科浩美「外国にルーツを持つ母親と幼稚園・保育園との書き言葉コミュニケーションについて—漢字圏出身者が書いた連絡帳の分析から—」, 2012年日本語教育国際研究大会, 名古屋大学, 2012年8月19日.
- 仁科浩美「口頭発表時の質疑応答において無音声時には何が行われているか—理工系分野の留学生を対象に—」, 日本語教育方法研究会, 立命館アジア太平洋大学, 2013年9月21日.
- 鎌田美千子・仁科浩美「パラフレーズに着目したアカデミック・ライティング指導の実践—レポートの文章を中心に—」, 日本語教育学会第9回研究集会, 愛媛大学, 2013年11月30日.
- 仁科浩美「理工系留学生の質疑応答場面におけるコミュニケーション・ブレイクダウンからの回復」シドニー日本語教育国際大会, シドニー工科大学, 2014年7月12日
- 東山禎夫, 仁科浩美, 「電気電子工学科の技術系文書作成法の導入」, 電気学会教育フロンティア研究会, 京都大学, 2014年12月13日.
- 森 秀明「「デナイ」「デハナイ」の語形による使い分け—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使用した予備的調査—」, 第11回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2013年8月5日.
- 森 秀明「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『図書館書籍』の生年代別分布は何を表しているのか—「デナイ」「デハナイ」「ジャナイ」の使用割合から見た—考察—」, 第4回コーパス日本語学ワークショップ, 国立国語研究所, 2013年9月6日.

森秀明「言語は経済に連動して変化する」, 第5回コーパス日本語学ワークショップ, 国立国語研究所, 2014年3月7日.

森秀明「均衡性と代表性に配慮した『太陽コーパス』の分析法試論(ポスター)」, 第6回コーパス日本語学ワークショップ, 国立国語研究所, 平成26年9月10日.

森秀明「代表性に配慮した『太陽コーパス』の分析法再考」, 第7回コーパス日本語学ワークショップ, 国立国語研究所, 平成27年3月11日.

若狭修平「発話アバターによるインタラクティブな日本語自主学習教材の試作研究」, 2010 PC conference, 東北大学, 2010年8月8日.

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

西沢悠希 平成23年度 東北大学総長賞(卒業論文), 2012年3月27日.

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010年度 大学院 計1名 ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア)  
2012年度 大学院 計1名 ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア)  
2013年度 大学院 計1名 ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア)  
2014年度 学部 計6名 ハワイ大学マノア校(アメリカ)2名, アリゾナ州立大学(アメリカ)1名, ニューヨーク市立大学リーマン校(アメリカ)1名, ソウル大学(韓国)1名[短期留学], チュラロンコーン大学(タイ)1名

#### 5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
10	4	5	9
11	10	4	14
12	6	5	11
13	3	6	9
14	11	6	17
15	9	7	16

計	43	33	76
---	----	----	----

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	2	0	2
11	4	0	4
12	3	3	6
13	3	3	6
14	2	4	6
15	2	1	3
計	16	11	27

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

高橋かつ子 函館大学 非常勤講師 2010年度  
河先俊子 国士舘大学 21世紀アジア学部 准教授 2011年度  
吹原 豊 福岡女子大学国際文理学部 講師 2011年度  
フェラ・ユリアンティ インドネシア・アルアザール大学 講師 2011年度  
周 侃 西南民族大学外国語学院日本語学部 講師 2012年度  
長谷川千絵 東北学院大学 非常勤講師 2013年度  
楊 慧 江西外語外貿職業専門学校 講師 2014年度  
呉 正培 尚綱女子大学 講師 2014年度  
楊 帆 北海道教育大学教育学部 准教授 2014年度  
佐々木良造 秋田大学国際交流センター 助教 2014年度  
島崎 薫 東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター  
助教 2014年度  
金 祉諱 国際交流基金日本語試験センター 研究員 2014年度  
鎌田 智瑛 学校法人文化学園文化外国語専門学校 講師 2014年度  
佐藤 杏奈 吉林大学外国語学院日文系 日本語専門家 2014年度  
梅木俊輔 東北大学大学院文学研究科 日本語教育学専攻分野 助教 2015年度  
森 秀明 山形大学 非常勤講師 2015年度  
佐藤 桐子 一関工業高等専門学校 非常勤講師 2015年度

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

日本語教師 6 名，国際交流基金海外派遣日本語教育専門家 2 名，高等学校教諭 2 名，システムエンジニア 2 名，ジャーナリスト 2 名，国家公務員 1 名，地方公務員 4 名，国立大学法人等職員 3 名，出版・情報通信・製鉄会社各 1 名。

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

釜慶大学校（韓国）教授 吳正煥 2010 年 7 月 25 日～7 月 28 日

同済大学（中国）教授 劉曉芳 2011 年 7 月 27 日～7 月 29 日

National Research University（ロシア）講師 Kireeva Maria

2012 年 6 月 25 日～7 月 17 日

リュブリャーナ大学（スロベニア）准教授 Irena Srdanovic 2015 年 1 月 29 日

ベルリン自由大学（ドイツ）専任講師 野呂香代子 2015 年 3 月 21 日～23 日

メルボルン大学（オーストラリア）准教授 大橋純 2015 年 3 月 21 日～27 日

## 10 刊行物

『言語科学論集』（専門分野の論集），国語学・言語学と共同，1997 年より毎年刊行

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010 年度

日本語教育講演会「言語の教育からコミュニケーションの教育へ」，2010 年 11 月 12 日。

2014 年度

国際シンポジウム「言語学者によるメディア・リテラシー研究の最前線—ポスト 3.11 の視点—」の企画・開催・運営 2015 年 3 月 22 日

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010 年度

日本語教育研究会「言語の教育からコミュニケーションの教育へ」講演会，

2010年11月12日.

### 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2009年度の鈴木淳子教授の他大学転出以来、教授2名、准教授2名、助教1名の5名体制だった研究室のスタッフは2013年度まで、教授1名、准教授2名、助教1名の4名または助教ポストのない3名体制で推移した。2014年4月に名嶋准教授が教授に昇進したが、一方で、同年度3月末に大学院協力教員である国際交流センターの助川泰彦教授が他大学転出となり、依然として厳しい状況が続いている。人的リソースが減ったことへの対応策として、学部生・院生へのオリエンテーションを充実させて情報量を増やしたり、指導体制に院生の希望を取り入れたりして影響を最小限に食い止めようとしているが、やはり限界はある。また、研究生希望者などの大学院生予備軍への対応について、研究室独自の応募期限を設け、必要な提出物の情報などとともに研究室のホームページに明示して、一定程度の透明化を図り、同時に教員の学外者対応の負担軽減も図っている。そういう苦しい中で、2015年3月に博士の学位を後期課程学生1名が取得し、2015年4月には助教として採用され当研究室に配置されたのは、今後の指導体制の強化につながる変化である。

日本語教育学研究室では、開設以来一貫して教育・研究環境の整備に力を入れている。約20台のパーソナルコンピュータを設置し、学生の研究・教育用に開放している。各コンピュータには最新の統計・ワープロ・表計算・プレゼンテーション・データベース・データ解析などのソフトがインストールされ、調査・実験データの分析、論文執筆や発表練習に十分な環境が整備されている。また、授業では、文献データベースサイトに関する情報を積極的に提供し、利用目的に即したサイト選択が効率よくできるよう指導している。この他、研究室内の資料室には約3,000部の専門書と約2,000部の研究雑誌・紀要・報告書等を蔵している。また、音声研究用の機材・分析装置や日本語の実習授業用の授業観察装置に加え、ビデオカメラ、録画再生用機器、OHC等も、互換性に留意しつつ機種を更新を行い、学生の便宜を図っている。

学生からの相談にはきめ細かく応じるようにしており、スタッフ全員が進路に関する相談や卒業論文の個別指導などの対応を随時柔軟に行っている。卒業論文については、2013年度3月より、教員3名・卒業論文執筆予定者全員によるゼミ形式の指導（毎月1回）を開始した。加えて、例年行っていた年間4回程度の構想発表・進捗状況報告も行い、その前後に必ず教員の個別指導を受けるよう促すことによって、就職活動に流されがちな時期にも円滑に論文作成が進むよう配慮している。そ

の年の4年生全体の状況によっては、夏休み直前に各学生と3名の教員の4人で個別面談を実施し研究の進捗状況と今後の進め方について話し合う機会を設けるなど、臨機応変な支援・指導を行っている。

大学院教育においても、各学生の研究相談に随時個別に対応している。週1回の課題研究の時間には、全大学院生に順番に各自の研究内容について発表させている。発表時間を制限して短時間に内容を要領よくまとめる訓練を行うほか、2014年度からは、後期課程の学生についてのみであるが、通常の倍程度の時間を与え、自分の研究を丁寧に説明し議論を行う訓練も行っている。課題研究では、指定討論者や質疑セッションの司会なども順に務めさせ、学会大会や国際会議等での発表を意識させるようにしている。教員とは課題研究での発表後に個別面談をするように指導しており、複数の教員と面談することにより、さまざまな視点からの指導や助言が得られるようにしている。学部生同様、修士2年次の大学院生に対しても、必要に応じて、当該学生と全指導教員で論文の進捗状況を踏まえた面談機会を設けるなど、教員側からの働きかけも行っている。

2012年度からは、大学院学生全員と教員スタッフのメーリングリストを、2013年度からは、学部生・研究生も含め研究室在籍者全員を対象としたメーリングリストも立ち上げ、情報伝達やコミュニケーションの一層の円滑化を図っている。このほか、田中准教授を中心に、現在の在籍者を対象としたFacebookグループと卒業生・修了生を含めてのFacebookグループも運用されている。

研究指導以外には、講演会やシンポジウム、関係書籍の展示会等を開催して院生に刺激を与えること、また、院生自身にも学会発表等を奨励することなどを通して、日本語教育学の研究成果を蓄積することに努めている。

日本語教育学は、現場に立つことが重要性を持つ領域であるので、実習をはじめ実地調査や見学など、学生・院生に現場を踏む機会を与えることにも努力している。2009年度からは(独)国際交流基金との海外日本語インターンプログラム業務提携により、学生に多くの費用負担をかけることなしに、海外の大学での日本語授業の見学と教壇実習の経験を積ませることが出来ている。幸い、現在(2014年度)まで毎年申請が採択され、2010年度には2月にタイ、2月から3月にかけて韓国に学生を派遣した。2011年度は東日本大震災の影響で毎年夏に受け入れてきた韓国・釜慶大学校からの学生の受入れがなかったため、8月にタイのサイアム大学でのインターンプログラムを実施し、学部生・大学院生を合わせて6名派遣した。韓国・忠南大学校へは前年度同様2月末から3月にかけて大学院生を5名派遣した。また、これらに加えて、アメリカ合衆国ペンシルベニア州のディキンソン大学へも同時期に

院生1名・学部生3名の計4名を派遣した。2012年度は、2月から3月にかけてタイ・サイアム大学に院生4名・学部生2名を、韓国・忠南大学校に学部生4名を派遣したが、2013年度は、再びアメリカも加えた3か国に10名を派遣した。2014年度は、タイ・サイアム大学に4名、韓国・忠南大学校に3名、アメリカ・ディキンソン大学に1名を派遣した。2015年度は中国・東南大学にも派遣をする計画で計4か国に派遣の予定である。

2014年前期には、今回初めての試みとして、一般財団法人東北多文化アカデミーと連携して「日本語教育インターンシップ」を企画した。これは前期課程1年生が一般財団法人東北多文化アカデミーの開催する日本語コースを見学したり事前指導を受けて実際に教えたりするものである。今回は2名が参加し、多文化アカデミー側からも良好な評価を得て、その後も依頼を受けて特定のコース運営に継続して関わることとなった。

スタッフは論文や著書などの出版、研究発表、講演などの研究活動を活発に行うだけでなく、学会役員、ジャーナル編集委員、大会開催委員などを務め、広く学会活動にも貢献している。これに加えて、田中重人准教授は2012年度まで法学研究科のグローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」の事業推進担当者を務め、その後継プログラムである「卓越した大学院拠点」でも実施担当者としても活躍した。

東日本大震災に関連する被災地、被災者の支援活動も展開している。名嶋准教授（当時）は、2011年12月より「縁側で『こんにちは!』」と銘打ったプロジェクトを名取市の仮設住宅団地で継続的に展開している。これは、仮設住宅に入居した被災者が周囲の人々とコミュニケーションをとる機会やきっかけを作り出すことを狙ったもので、研究室内外の学生・院生もボランティアとして参加している。2015年3月15日には第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラムでその取り組みについて報告を行った。2015年度も活動継続中である。また、同准教授（当時）は総長裁量経費を得て、南三陸町を訪問する「国際スタディツアー」を2012年度に2回実施した。これは、東北大学と横浜国立大学・東海大学の日本人学生・留学生が現地で開催される「語り部ツアー」に参加するもので、2013年度はさらに招聘する大学を増やして3回実施した。2年間で東北大学・横浜国立大学・東海大学・首都大学東京・一橋大学・筑波大学・立教大学の学生・教員延べ100人以上参加した。

また、2015年3月22日に、国際シンポジウム「言語学者によるメディア・リテラシー研究の最前線—ポスト3.11の視点—」を名嶋教授が企画運営して開催した。市民公開の企画で、仙台市・宮城県はもちろん日本各地から計70名の参加があり



成功裏に終了した。

このように当研究室は研究・教育に加え、社会発信・社会貢献にも尽力している。

### Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

- 才田いずみ 「話しことばをめぐる教材開発への一提案」 『日本語教育方法研究会誌』 21 巻 1 号, pp.70-71. 2014.
- 高橋亜紀子, 才田いずみ, 小河原義朗, 井口寧 「遠隔日本語学習コースウェアの設計条件—システム・エンジニアのためのコースウェア開発に向けて—」 宮城教育大学紀要 44 巻別冊. pp.277-291. 2010.2.
- 名嶋義直 「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際—東北大学の場合—」, 『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』 第 4 号, 大学日本語教員養成課程研究協議会, pp.41-57. 2010.
- 名嶋義直 「学習者の多様化に対応する会話授業・作文授業の可能性—ジャーナルの横断的分析から—」, 『琉球大学留学生センター紀要 琉球大学 留学生教育』, pp.49-65. 2010.
- 名嶋義直・品田潤子・倉本文子・山森理恵 「コミュニケーションのための「話す」Web 教材—『会話プロセスの可視化』と『学習プロセスの可視化』—」, 『2010 ICJLE 世界日本語教育大会論文集』, pp.11300-11309. 2010.7.
- 名嶋義直 「日本語教育におけるコミュニケーション教育の実際」, 『日本語学』 2011 年 1 月号, 明治書院, pp.62-77. 2010.12.
- 名嶋義直 「語ることは『いま』を生きること」 座小田豊・尾崎彰宏編『今を生きる—東日本大震災から明日へ！復興と再生への提言—1.人間として』, 東北大学出版会, pp.65-82. 2012.
- 名嶋義直 「学習者の日本語に見られる『顕在化しない誤用』」, 『日本語言文化研究』 第二輯, 延吉大学出版社, pp.124-130. 2012.
- 名嶋義直 「学習者の日本語は母語話者にどのように解釈されているか—語用論的観点からの考察—」, 『2011 年上海外国語大学日本学国際論壇記念論文集』, 华东理工大学出版社有限公司, pp.26-30. 2012.
- 名嶋義直 「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効果について」, 『ハノイ大学第二回国際シンポジウム紀要』, pp.247-260. 2013.

- 名嶋義直 「ノダに関する心的文法 - 中国人学習者と韓国人学習者との比較 - 」  
『日本語文化研究』第三輯, 延吉大学出版社, pp.555-564. 2014.
- NAJIMA Yoshinao Sentence-Final Particles in Japanese: Interrelation Meanings of *Ka*,  
*Yone*, *Yo* and *Ne*, 『東北大学文学研究科研究年報』第 63 号, pp.179-208. 2014
- 名嶋義直 「ノダ文に関する語用論的考察—韓国人日本語学習者の場合—」, 『第  
9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集 (於 香港城市大学) 』,  
pp. 269-280. 2014.
- 名嶋義直 「序章 背景となる諸事象の説明」名嶋義直・神田靖子 編『3.11原発  
事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房, pp.1-12. 2015.
- 名嶋義直 「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす  
効果について—見出しが誘発する読者の解釈—」名嶋義直・神田靖子 編『3.11  
原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房, pp.199-239. 2015.
- 名嶋義直 「終章 吉田調書をめぐると読み解く」名嶋義直・神田靖子  
編『3.11原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房, pp.241-272.  
2015.
- 名嶋義直 「日本語教育学の体系化を目指して—日本語教育関係者の社会的役割  
について」, 神吉宇一 (編著), 名嶋義直・柳田直美・松尾慎・三代純平・  
嶋ちはる・牛窪隆太 (著)『日本語教育学のデザイン』凡人社, pp.29-54. 2015.
- 名嶋義直 「災害とコミュニケーション」, 『ひつじ意味論講座第 7 巻 意味の  
社会性』ひつじ書房 (編集中) .
- 名嶋義直 「特定秘密保護法に関する記者会見記事の批判的談話分析—トピック  
・連鎖・構造を中心に—」, 『日本語語用論フォーラム』ひつじ書房 (編  
集中)
- 名嶋義直 「特定秘密保護法に関する記者会見記事の批判的談話分析—ミクロ面  
の分析を中心に—」, 『文化』第 78 巻 1・2 号, (編集中) .
- TANAKA Sigeto “The Family and Women's Economic Disadvantage: A Micro-macro  
Problem for Distributive Justice”, TSUJIMURA Miyoko and Osawa Mari eds.,  
*Gender Equality in Multicultural Societies*, Tohoku University Press, pp. 215-234,  
2010.
- 田中重人 「女性の経済的不利益と家族: 分配的正義におけるミクロ・マクロ問  
題」辻村みよ子・大沢真理 編『ジェンダー平等と多文化共生: 複合差別を超  
えて』東北大学出版会, pp. 99-118, 2010.
- TANAKA Sigeto “The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce:

- The Gender Gap in Equivalent Household Income”, 田中重人・永井暁子 編『第3回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第2次報告書 1: 家族と仕事』日本社会学会全国家族調査委員会, pp.145-165, 2011.
- 田中重人 「国民生活基礎調査分析結果」『女性の生活状況及び社会的困難をめぐる事例調査』せんだい男女共同参画財団, pp.53-72, 2013.
- SUZUKI Fumiko and TANAKA Sigeto “Women, Work, and Family Issues”, in TANAKA Sigeto ed. *A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families*, Tohoku University Press, pp.195-234, 2013.
- TANAKA Sigeto “Gender Gap in Equivalent Household Income after Divorce”, in TANAKA Sigeto ed. *A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families*, Tohoku University Press, pp.321-350, 2013.
- 田中重人 「回収状況」『全国家族調査パネルスタディ (NFRJ-08Panel) 報告書』日本家族社会学会全国家族調査委員会, pp. 24-26. 2014.
- 田中重人 「NFRJ-08Panel 第1波～第5波回収の状況」『家族社会学研究』26巻, pp. 165-168. 2014.
- 呉 正培・金 鉉哲 「韓国語学習者の韓国人イメージにみられる特徴—東北大学における学習者と非学習者の比較—」(共同)『東北大学高等教育推進センター紀要』4号, pp. 57-68, 2009.
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人に対するイメージの内容分析」『東北亜文化研究』22, 東北アジア文化学会, pp. 311-326, 2010.
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人イメージの形成メカニズム—イメージ形成の因果モデルの提案—」『日本學報』83, 韓国日本学会, pp 85-97, 2010.
- 梅木俊輔 (2015年4月1日助教着任につき, それまでの業績は「2-3上記の大学院生等による論文・口頭発表」に記載)

## 1-2 著書・編著

- 名嶋義直・神田靖子 編 『3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房, 2015.
- 神吉宇一 編著, 名嶋義直・柳田直美・三代純平・松尾慎・嶋ちはる・牛窪隆太 著 『日本語教育 学のデザイン』凡人社, 2015 (5月20日発行予定).
- 田中重人・永井暁子 編 『第3回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第2次報告書 1: 家族と仕事』日本社会学会全国家族調査委員会, 2011.
- TANAKA Sigeto ed. *A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families*,

Tohoku University Press, 2013.

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

名嶋義直 「みんなのまちづくり- 震災のあと行ってきたこと, これから行っていくこと」, 名嶋義直 (編著) 『日本語教育国際研究大会 名古屋 2012 特別企画イベント関連事例集 わたしたちのまちづくり-震災のあと行ってきたこと, これから行っていくこと-』, 2012年8月17日. pp.17-20.

名嶋義直 「2012年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) 報告」 (共著), 『日本語教育』154号, 日本語教育学会, pp.42-44 (分担), 2013年4月25日.

名嶋義直 (編著) 「縁側で『こんにちは』」プロジェクトー共有・共感・共生空間の創生ーについて」, 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム配布資料冊子, 2015年3月14日, 全29ページ.

名嶋義直 (編著) 「国際シンポジウム 言語学者によるメディア・リテラシー研究の最前ーポスト 3.11 の視点ープログラムと発表資料集」, 2015年3月22日. 全57ページ.

名嶋義直 「原発事故の風化とメディアとの関係ー新聞記事が読者に与える影響ー」, 「日本科学者会議創立50周年記念行事 国際シンポジウム『移行: 原子力から再生可能エネルギーへ 要旨集』」, 横浜国立大学, 2015年3月29日. pp.47-55.

才田いずみ 事典項目「相づち」「外国の日本語研究 (アメリカ)」「簡約日本語」「日本語教育」「日本語教育基本語彙七種比較対照表」「日本語教育振興会」「日本語教育振興協会」「日本国際教育協会」, 佐藤武義・前田富善祺編集代表『日本語学大事典』朝倉書店. 2014.11.6

### 1-4 口頭発表

#### (1) 国際学会

Izumi SAITA 【招待講演】“Reconsidering communication materials in an advanced information society”. CLS 10<sup>th</sup> Anniversary Symposium, The Centre for Language Studies, University of Singapore. Dec.1-2, 2011.

名嶋義直 『留学生教育に関するラウンドテーブル』話題提供者, 「日本語専攻・日本語講座が目指す専門性とは何か: こんな人材を育てたい」, 中央アジア地域の留学生受入強化と教育・研究充実に向けた国際シンポジウム, 筑波大学 (日本), 2010年7月15日.

NAJIMA, Yoshinao “A Study of Sentence-Final Particles in Japanese: Interface between Semantics, Syntax and Pragmatics.” 招待パネル Pragmatics of Japanese: Insights and implications for Japanese language and education. 18th International Conference on Pragmatics & Language Learning, Kobe University, 2010年7月18日.

名嶋義直・品田潤子・倉本文子・山森理恵 「コミュニケーションのための「話す」Web教材—『会話プロセスの可視化』と『学習プロセスの可視化』—」, 2010 ICJLE 世界日本語教育大会. 台湾政治大学(台湾). 2010年7月31日.

名嶋義直 「学習者の日本語に見られる『顕在化しない誤用』」, 第二回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム, 延辺大学(中国), 2011年8月23日.

名嶋義直 「学習者の日本語は母語話者にどのように解釈されているか—語用論的観点からの考察—」, 2011年上海日本学研究国際フォーラム, 上海外国語大学, 2011年11月19日.

名嶋義直 「会話リソースの利用可能性」, 東京外国語大学留学生日本語教育センター統合20周年記念国際シンポジウム「これからの教材開発・教育リソース研究を考える」分科会発表者, 東京外国語大学, 2012年3月2日.

名嶋義直 「ノダ文に関する語用論的考察—韓国人日本語学習者の場合—」, 第9回国際日本語教育・日本研究国際シンポジウム, 香港城市大学, 2012年11月24日-25日.

名嶋義直 「ノダに関する心的文法—中国人学習者と韓国人学習者との比較—」, 第3回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム, 延辺大学, 2013年8月19日-20日.

名嶋義直 「『反・脱原発』の談話行動について—社説の分析を通して—」, 第4回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム, 延辺大学, 2015年8月17日-23日(予定).

NAJIMA Yoshinao “Critical Discourse Analysis of Newspaper Articles about the Fukushima Nuclear Power Plant Accident: How the power is going to be maintained”, 13th International Pragmatics Conference, International Pragmatics Association, New Delhi, 2013年9月8日~13日.

UMEKI Shunsuke and NAJIMA Yoshinao “Behavior in ‘sequence-closing third’: ‘Why they don’t say that I don’t know what to say?’ ”, 13th International Pragmatics Conference, International Pragmatics Association, New Delhi, 2013年9月8日~13日.

名嶋義直 「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効

果について」，ハノイ大学主催第二回国際シンポジウム，ハノイ大学，2013年10月15日。

名嶋義直 (チェア) ・高木佐知子・神田靖子 「パネルセッション：日本研究と読解教育との橋渡し—社会的なテキストの潜在的可能性—」，ICJLE 2014 日本語教育国際研究大会，シドニー工科大学，2014年7月11日。

名嶋義直 「食の放射能汚染に関する情報はいかに報道されたか—新たな安全神話の構築—」，名嶋義直 (チェア) ・高木佐知子・神田靖子「パネルセッション：日本研究と読解教育との橋渡し—社会的なテキストの潜在的可能性—」，ICJLE 2014 日本語教育国際研究大会，シドニー工科大学，2014年7月11日。

名嶋義直 「人はいかに新聞記事を読まされるか—批判的談話分析の検証—」，第二回アジア未来会議，2014.8.22-24，ウダヤナ大学（インドネシア），2014年8月23日。ポスター発表。

名嶋義直 (チェア) ・沢田充・梅木俊輔・寺川直樹・山森理恵 「縁側で『こんにちは』」プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—について」，第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム、仙台市民会館、2015年3月14日。

名嶋義直 「「縁側で『こんにちは』」プロジェクトの過去・現在・未来—その狙い，活動，効果，課題—」，第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「縁側で『こんにちは』」プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—について」，2015年3月15日。

名嶋義直 【企画・運営・司会】「国際シンポジウム：言語学者によるメディア・リテラシー研究の最前線—ポスト 3.11 の視点—」，仙台国際センター，2015年3月22日。

名嶋義直 「安倍首相の特定秘密保護法に関する記者会見について」，「国際シンポジウム：言語学者によるメディア・リテラシー研究の最前線—ポスト 3.11 の視点—」，仙台国際センター，2015年3月22日。

名嶋義直 【招待講演】「原発事故の風化とメディアとの関係—新聞記事が読者に与える影響—」，「日本科学者会議創立50周年記念行事 国際シンポジウム『移行：原子力から再生可能エネルギーへ』」，横浜国立大学，2015年3月29日。

TANAKA Sigeto “A Quantitative Analysis of the Economic Situation of Those Who Have Undergone Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income, 1998-2008, in Japan.” (単独), International Seminar, International Sociological Association, Research Committee 06 (Committee on Family Research), 京都大学, 2011年9月12日。

TABUCHI Rokuro and TANAKA Sigeto “Family Studies based on Quantitative

Analyses of Surveys” (session organizers). 18<sup>th</sup> World Congress of Sociology,

International Sociological Association, Pacifico Yokohama. 2014年7月19日.

呉 正培 「日本人大学生の韓国人に対するイメージの構造分析」, 韓国日本学会  
第82回学術大会, 漢陽女子大学, 2011年2月12日.

梅木俊輔 (2015年4月1日助教着任につき, それまでの業績は「2-3上記の大学  
院生等による論文・口頭発表」に記載)

## (2) 国内学会

才田いずみ 「日本語教育におけるICTの活用」セミナー4「初修(第二)外国語  
とICT—日本語・中国語・韓国語の場合—」パネリスト, 2010 PC Conference,  
CIEC 研究大会. 東北大学, 2010年8月9日.

才田いずみ 「実践研究の工夫と失敗」, パネル「実践研究を考える」, 日本語  
教育学会実践研究フォーラム, 横浜国立大学, 2011年7月31日.

才田いずみ 「話しことばをめぐる教材開発への一提案」日本語教育方法研究会,  
横浜国立大学, 2014年3月15日.

名嶋義直 特別シンポジウム「災害とコミュニケーション」講師, 「言葉は失わ  
れたのか—『語る』』—ということはどう考えるか—」, 日本語用論学会, 京  
都外国語大学, 2011年12月3日.

名嶋義直 「日本語学習者が持つノダ文のプロトタイプの用法について」(招待発  
表), 日本語文法学会 第13回大会発表, 名古屋大学, 2012年10月28日.

名嶋義直・小山友里江・梅木俊輔・エミ インダー プリヤンティ 「語用論研究か  
ら日本語教育へ, 日本語教育から語用論研究へ」(懇話発表), ワークショ  
ップ発表, 日本語用論学会第15回記念大会, 大阪学院大学, 2012年12月1日.

田中重人 「離婚経験者にみる等価世帯所得の男女格差とその要因: 第1-3回全  
国家族調査データによる定量的分析」, 第20回大会, 日本家族社会学会, 成城  
大学, 2010年9月12日.

呉 正培 「日本人大学生の韓国人に対するイメージ—韓国語学習者と非学習者の  
比較—」, 異文化間教育学会第31回大会, 奈良教育大学, 2010年6月12日.

梅木俊輔 (2015年4月1日助教着任につき, それまでの業績は「2-3上記の大学  
院生等による論文・口頭発表」に記載)

## (3) 研究会

才田いずみ 「「言語情報弱者」と「やさしい日本語」の問題: 仙台の事例から」,

日本学術会議言語・文学委員会「文化の邂逅と言語」分科会，平成 23 年度第 2 回報告，東京大学文学部第 3 会議室，2012 年 2 月 4 日

才田いずみ 「学習環境と日本文化：日本語学習リソース再考」報告 5，日露ワークショップ「日本文化を教える：ロシアと日本の日本語教育の現場から」，東北大学さくらホール，2013 年 9 月 25 日。

名嶋義直 「終助詞に関する一考察-意味論・構文論・語用論のインターフェース-」，第 8 回日本語教育研究集会，名古屋大学，2010 年 8 月 9 日。

名嶋義直 「コミュニケーションの観点から見た『顕在化しない誤用』」，沖縄県日本語教育研究会 2010 年度第 3 回研究発表会，琉球大学，2011 年 3 月 8 日。

名嶋義直 「言葉の持つ『限界と可能性』-東日本大震災が見せた言語行為の諸相-」，第 9 回日本語教育研究集会，名古屋大学，2011 年 8 月 8 日。

名嶋義直 「ノダ文に関する心的文法について- 中国人学習者の場合- 」，沖縄県日本語教育研究会 2012 年度第 3 回研究発表会，琉球大学，2013 年 3 月 1 日。

名嶋義直 「メタ的に産出したノダ文の文法的特徴に関する一考察- 中国人学習者と韓国人学習者との比較- 」，第 11 回日本語教育研究集会，名古屋大学，2013 年 8 月 5 日。

名嶋義直 「語用論・批判的談話分析から見えてくるもの - 読解教育への展開を視野に - 」，沖縄県日本語教育研究会 第 11 回大会，琉球大学，2014 年 2 月 22 日。

名嶋義直 「新聞記事における誘導に関する一考察 - 話題や言語形式に着目して - 」，第 12 回日本語教育研究集会，名古屋大学，2014 年 8 月 4 日。

名嶋義直 「読解における縦断的視点と横断的視点の重要性- 吉田調書報道から見えるもの- 」，沖縄県日本語教育研究会 第 12 回大会，琉球大学，2015 年 2 月 28 日。

TANAKA Sigeto “The Family, Marriage, and Gender Inequality: Quantitative Analysis of Economic Situation after Divorce”，東北大学法学研究科グローバル COE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」第 23 回月例研究会 2011 年 2 月 16 日。

TANAKA Sigeto “The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income.”，NFRJ08 データ学会内共同利用 (NFRJ08 研究会) 研究報告会 2011，日本女子大学，2011 年 7 月 24 日。

梅木俊輔 (2015 年 4 月 1 日助教着任につき，それまでの業績は「2- 3 上記の大学院生等による論文・口頭発表」に記載)



田中重人 「公共社会学と社会指標」, 東北大学文系 4 学部合同「クワトロセミナー」第 4 回, 東北大学, 2015 年 1 月 14 日.

## 2 教員の受賞歴 (2010~2014 年度)

なし

## IV 教員による競争的資金獲得 (2010~2014 年度)

### (1) 科学研究費補助金

2010~2011 年度

呉 正培 (研究代表者) : 若手研究 (B) 2010~2011 年度 課題番号 : 22720209 「韓日の相手国民に対するイメージを測定する尺度の開発」 1,640,000 円 (2 年間総額)

2010~2012 年度

才田いずみ (研究代表者) : 基盤研究 (C) 2010~2012 年度 課題番号 : 22520516 「位相を意識した日本語使用を促す学習支援システムの研究」 3,100,000 円 (3 年間総額)

2011~2012 年度

名嶋義直 (研究代表者) : 挑戦的萌芽研究 2011~2012 年度 課題番号 : 23652110 「日本語学習者の心的文法に関する基礎的研究」 1,040,000 円 (2 年間総額)

2011~2014 年度

田中重人 (研究代表者) : 基盤研究 (B) 2011~2014 年度 課題番号 : 23330153 「社会学文献情報データベースを基盤とした研究者コミュニティの再創造」 10,800,000 円 (4 年間総額)

2013 年度~2015 年度

才田いずみ (研究代表者) : 基盤研究(C) 2013~2015 年度 課題番号 : 25370572 「日本語学習者の会話力強化のための学習支援システムの研究」 3,100,000 円 (3 年間総額)

名嶋義直 (研究代表者) : 挑戦的萌芽研究 2013~2015 年度 課題番号 : 25580084 「社会への実践的還元を目指した日本語テキストの批判的談話分析基礎研究」 1,950,000 円 (3 年間総額)

### (2) その他

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（2カ国），1,315,959円（2010年度）

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（3カ国），3,192,841円（2011年度）

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（2カ国），1,510,186円（2012年度）

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（3カ国），2,173,650円（2013年度）

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（3カ国），1,429,000円（2014年度）

才田いずみ（事業担当責任者）：国内大学連携事業（（独）国際交流基金受託事業）  
「海外日本語インターンプログラム」（4カ国），683,527円（2015年度）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，496,000円（2011年度下半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，600,000円（2012年度上半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，600,000円（2012年度下半期）

名嶋義直（取組責任者）：総長裁量経費 震災復興支援事業「今こそ自分たちの目で見て考えよう！ 震災と被災地を風化させないための南三陸町国際スタディツアー」，800,000円（2012年度下半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，700,000円（2013年度上半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，700,000円（2013年度下半期）

名嶋義直（取組責任者）：総長裁量経費 震災復興支援事業「今こそ自分たちの目で見て考えよう！ 震災と被災地を風化させないための南三陸町国際スタディツアー2013」，900,000円（2013年度）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，700,000円（2014年度上半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト，700,000円（2014年度下半期）

名嶋義直（取組責任者）：研究科長裁量経費 「国際シンポジウム：言語学者によ

るメディア・リテラシー研究の最前線- ポスト 3.11 の視点- 」, 1,200,000 円 (2014 年度下半期)

名嶋義直 (取組責任者) : 研究科長裁量経費 震災復興支援事業「縁側で『こんにちは』」プロジェクト, 600,000 円 (2015 年度上半期)

## V 教員による社会貢献 (2010~2014 年度)

### (1) 政府・地方公共団体関係機関等の委員

才田いずみ 文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員 2004~2010 年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 2008年  
8月~2010年7月

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 国際事業委員会書面審査員 2008年8  
月~2010年7月31日

才田いずみ 学校法人宮城学院 評議員 2011~2013 年度

才田いずみ 財団法人日本語教育振興協会 審査委員会専門委員 2004~2013 年度

才田いずみ 日本学術会議連携会員 2006 年 8 月~現在

### (2) 公開講座等の講師

才田いずみ 日本語ボランティア育成講座 講師 財団法人仙台国際交流協会  
2004~2010 年度

才田いずみ 第4期 齋理蔵の講座 講師 第4回「“あたし”と“おれ”」2011年9  
月3日

才田いずみ 日本語教育研究推進セミナー 講師 「競争的外部研究費の獲得を  
目指して」2011年10月9日 米子コンベンションセンター (社) 日本語教育  
学会

才田いずみ 平成 25 年度高大連携事業に関わる地域公開講座 Sanuma Summer  
University 講師 「日本語教育はおもしろい」, 宮城県佐沼高等学校 2013  
年7月18日

才田いずみ 平成 26 年度横手高校あをくも人材育成事業東北大学訪問 特別講義  
「日本語あれこれ」2014年8月1日

才田いずみ 平成 26 年度高崎高等学校東北大学訪問 特別講義「あれこれ考えよ  
う」2014年9月4日

才田いずみ 平成 26 年度 磐城高等学校 特別講義「あれ?これってどうなっ  
てるの?」2014年9月22日

才田いずみ 夢ナビ 2014 in 仙台 「教えることは学ぶこと：日本語教育学入門」2014年10月4日

名嶋義直 ワークショップ講師 「会話教育を考える」，国際都市仙台を支える市民の会（ICAS）主催「日本語ボランティア教師研修」，2010年11月7日．

名嶋義直 研修講師 「実践的な『話す』能力を養う日本語教育」，JAL アカデミー 日本語教師のためのブラッシュアップコース 「実践的な能力を養う日本語教育」第4講座，JAL アカデミー，2010年11月12日．

名嶋義直 特別授業講師 山形県立山形東高等学校 2011年11月4日

名嶋義直 企業研修講師 「日本語会話における『丁寧さ』—相手配慮のコミュニケーション—」，宇拓司貿易（上海）有限公司，2011年11月18日．

名嶋義直 ラジオ出演 震災復興支援活動「縁側で『こんにちは』」プロジェクト紹介（インタビュー），NHK ラジオ第一放送「らじおあさいちばん」，2012年3月6日．

名嶋義直 特別講義 「東日本大震災，そのとき，そのあと」，聖公会大学日語日文学科，2012年3月16日．

名嶋義直 特別講義 「会話教育について考える」，上海財経大学日本語学科，2012年3月19日．

名嶋義直 総合司会 「特別企画イベント みんなのまちづくり—震災のあと行ってきたこと，これから行っていくこと」，日本語教育国際研究大会 2012 名古屋，ウインクあいち，2012年8月17日．

名嶋義直 講演講師 「縁側で『こんにちは』プロジェクトについて」，東日本大震災復興支援のための講演と第4回 『名もない花たちの演奏会』，仙台市福祉プラザ，2012年11月4日．

名嶋義直 ゲストスピーカー 「縁側で『こんにちは』プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—」，学都仙台コンソーシアム「復興大学」復興人材育成教育コース 復興の社会学（3），AER，2013年10月19日．

名嶋義直 ゲストスピーカー 「縁側で『こんにちは』プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—」，学都仙台コンソーシアム「復興大学」復興人材育成教育コース 復興の社会学（9），AER，2014年11月15日．

名嶋義直 ゲストスピーカー 「縁側で『こんにちは』プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—」，学都仙台コンソーシアム「復興大学」復興人材育成教育コース 復興の社会学（3），AER，2015年10月3日（予定）．

田中重人 「ワーキング・ウィメンズ・ネットワークを形成した運動家たち」，

東北大学文学研究科 市民のための公開セミナー「第3期齋理蔵の講座」2010年8月7日.

田中重人 特別授業「広陵セミナー」講師 仙台向山高等学校 2011年11月2日

田中重人 調査報告とパネルディスカッション「国民生活基礎調査分析結果」せんだい男女共同参画財団 シンポジウム「女性の生きづらさをみんなで考えよう：みえない貧困とジェンダー」, エル・ソーラ仙台, 2013年3月23日.

呉 正培 研修会講師 「日本語学習者の日本人に対するイメージ」, 日本語ティーラーム主催, 仙台八木山市民センター, 2010年6月25日.

呉 正培 シンポジウムパネリスト「日本での経験から考えてみた多文化共生」, 多文化共生セミナー2010「韓国の取り組みから考えよう」, 仙台国際センター, 2010年9月9日.

### (3) NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

才田いずみ NPO 法人 日本語 e-Learning センター 理事長 2005年度～2011年度

才田いずみ 一般財団法人 東北多文化アカデミー 評議員 2010年度～現在

才田いずみ NPO 法人 科学協力学際センター 理事 2011年度～現在

才田いずみ 公益財団法人カメイ社会教育振興財団助成選考委員会委員 2014年度～現在

名嶋義直 仙台市・名取市・南三陸町・宮古市災害ボランティアセンター登録の災害ボランティア 2011年3月～2011年8月

名嶋義直 あしなが育英会ファシリテーターボランティア 2011年6月～現在

名嶋義直 なとり復興支援センター「ひより」(名取市社会福祉協議会内)と協力関係, 2011年10月～現在.

名嶋義直 NPO 法人 防災のことば研究会 発起人 2013年度～現在

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2010～2014年度)

才田いずみ

日本語教育方法研究会 運営委員 2010年度

(社)日本語教育学会 常任理事 2005年6月～2011年5月

(社)日本語教育学会 学会誌査読協力者 1999年度～2012年度

公益社団法人 日本語教育学会 学会誌査読協力者 2013年度～現在

公益社団法人 日本語教育学会 代議員選挙地域ブロック運営委員会委員

2013 年度～現在

CIEC PC カンファレンス 2010 実行委員 2010 年度

小出記念日本語教育研究会 編集委員 2010 年 9 月～2014 年 7 月

#### 名嶋義直

日本語教育方法研究会 運営委員 2010 年度

日本語文法学会 学会誌委員 2007 年度～2012 年度

名古屋大学日本語教育研究集会 実行委員会 2003 年度～現在

小出記念日本語教育研究会 研究委員 2008 年度～2010 年 9 月

小出記念日本語教育研究会 編集委員 2012 年度～現在

日本語教育学会 査読協力者 2008 年度～2012 年度

日本語教育学会 評議員 2010 年度～2012 年度上期

公益社団法人 日本語教育学会 理事 2013 年度～現在

日本語用論学会 査読協力者 2009 年度

日本語用論学会 運営委員 2010 年度～現在

第二言語習得研究会 大会副委員長 2010 年度～2011 年度

第二言語習得研究会 大会委員長 2012 年度～2013 年度

第二言語習得研究会 幹事 2014 年度～現在

日本言語学会 2010 年度秋季大会 実行委員

2010 ICJLE 世界日本語教育大会パネルセッション司会 2010.8.1

2011 年上海日本学研究国際フォーラム, 第八分科会午後の部座長, 2011 年  
11 月 19 日.

2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) 実行委員 2010 年～2012 年

日本語教育能力検定試験 試験小委員会委員 2011 年～2013 年

社会言語科学会 2012 年度秋季大会 開催校委員 2012 年 9 月 1 日～2 日.

第 3 回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム, 第 8 会場午後前半座長,  
2013 年 8 月 20 日 (於 延辺大学/中国, 延吉市)

韓国日本語学会一般理事 2014 年 1 月～現在

2014 ICJLE 世界日本語教育大会口頭発表セッション 4 司会 2014.7.11

#### 田中重人

日本家族社会学会全国家族調査委員会委員 2004 年～2013 年

日本社会学会データベース委員会委員 2003 年～2012 年

東北大学グローバル COE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」事業推進担当者 2008 年度～2012 年度

## VII 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当 (2015 年度)

#### 1 大学院授業担当

才田いずみ

- 1 学期 日本語教育論講読「第二言語習得研究」
- 2 学期 日本語教育論研究演習Ⅱ「映像リソースを活用した授業デザイン」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

名嶋義直

- 1 学期 日本語教育論実習Ⅰ「日本語コース運営の基礎」
- 2 学期 日本語教育論実習Ⅱ「日本語コースの評価と改善」
- 1 学期 日本語教育論特論Ⅲ「日本語の会話について考える」
- 2 学期 日本語教育論研究演習Ⅰ「語用論の基礎」
- 2 学期 日本語教育論特論Ⅳ「批判的談話分析の基礎」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

田中重人

- 1 学期 比較現代日本論講読Ⅰ「現代日本論論文講読」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析入門」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の基礎」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習Ⅱ「調査的面接の基礎」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習Ⅲ「実践的統計分析法」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

#### 2 学部授業担当

才田いずみ

- 3 セメスター 日本語教育学基礎講読「外国語学習と習得」
- 3 セメスター 日本語教育学概論「日本語と日本語教育」
- 4 セメスター 日本語教育学概論「日本語教育の基礎」
- 5 セメスター 日本語教育学演習「音声と聴解の教育」
- 6 セメスター 日本語教育学演習「映像リソースを活用した授業デザイン」

- 5 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の基礎」
- 6 セメスター 日本語教育学実習「日本語コースの運営と改善」

名嶋義直

- 1 セメスター 人文社会総論（分担）「日本語教育学」
- 4 セメスター 日本語教育学基礎講読「日本語を文法的に考える」
- 5 セメスター 日本語教育学講読「語用論の基礎」
- 5 セメスター 日本語教育学各論「日本語の会話について考える」
- 5 セメスター 日本語教育学各論「批判的談話分析の基礎」

田中重人

- 3 セメスター 現代日本論概論「現代日本における家族」
- 4 セメスター 現代日本論概論「現代日本における職業」
- 3 セメスター 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」
- 4 セメスター 現代日本論基礎講読「研究法入門」
- 5 セメスター 現代日本論演習「統計分析入門」
- 5 セメスター 現代日本論演習「質問紙調査の基礎」
- 6 セメスター 現代日本論演習「調査的面接の基礎」
- 6 セメスター 現代日本論演習「実践的統計分析法」
- 5 セメスター 現代日本論講読「現代日本論論文講読」

### 3 共通科目・全学科目授業担当

才田いずみ

- 2 セメスター 全学教育科目 言語学「日本語はどんな言語でどう使われているか」

#### (2) 他大学への出講（2010～2015 年度）

才田いずみ

- 宮城学院女子大学大学院・人文科学研究科（通年）（2003～2015 年度）
- 桜美林大学大学院・言語教育研究科（集中講義）（2009～2010 年度）
- 岩手大学・教育学部（集中講義）（2003～2011 年度）

名嶋義直

- 金城学院大学（集中講義）（2011 年度）
- 仙台白百合女子大学（通年）（2008～2015 年度）
- 岩手大学・教育学部（集中講義）（2011～2015 年度）



田中重人

東北学院大学・教養学部（通年）（2009～2010 年度）

呉 正培

宮城教育大学（通年）（2008～2011 年度）

宮城学院女子大学（通年）（2011 年度）